

# ふかえりのわくわくFP通信

ちょっと気になる「資産運用」「保険」「年金」などお金についての話題をお届けします。

## お手元に保険料控除証明書は届いていますか？

保険料控除証明書は、年末調整や確定申告の際に必要な書類です。

紛失などでお手元にない場合、再発行にはお時間をいただく場合がありますので、早めにご連絡くださいますようお願いいたします。

また、この機会にご加入中の保険内容を見直してみるのもおすすめです。

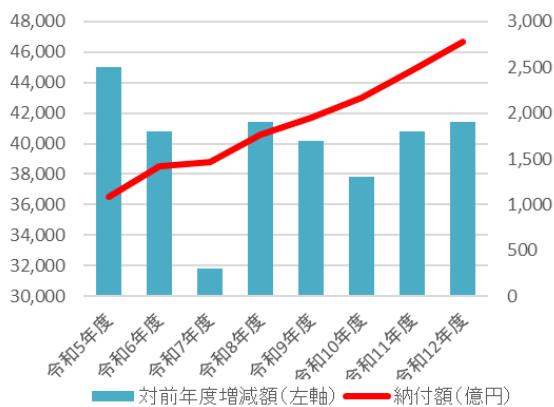
思わぬ重複や過剰な保障を整理することで、無駄な保険料を抑えられるチャンスになります。とはいえ、保険の内容は複雑で分かりにくいもの。

いつでも遠慮なくお声かけください。

保険の内容について、分かりやすくご説明させていただきます。

## 健保組合、約半数が赤字

—高齢者医療への拠出が財政の重荷に



健康保険組合連合会（健保連）が発表した令和6年度の決算見込みによると、全体では145億円の黒字となったものの、約半数の660組合（47.9%）が赤字となっています。保険料収入は9兆1,444億円と増加しましたが、支出の膨張が続いており、特に高齢者医療制度への拠出金が財政の大きな負担となっています。

現在の拠出額は3兆8,591億円で、後期高齢者の増加により、令和12年度には4兆6,700億円に達すると予測されています。

最近の高齢者医療費の自己負担見直しも含め、今後は「受給と負担のバランス」をめぐる議論がより活発になるでしょう。

このニュースから読み取れるのは、**将来的に医療費や保険料の負担増が避けられない可能性がある**ということです。

- ・ 健保組合の財政状況が厳しい場合、保険料率の引き上げや自己負担増につながることも考えられます。
- ・ ご自身やご家族のライフプランを見直し、医療費や保険料の変動に備えた資金計画を立てることが重要です。
- ・ この点からも、老後に向けて資産形成が大切ということがわかりますね。

将来の支出リスクを見据え、**早めに準備**を始めることが、安心した生活を守るために第一步といえます。

「みらいのお金クリニック」  
アルシアコンサルティング株式会社  
深川 恵理子

〒251-0023 神奈川県藤沢市鵠沼花沢町2-3PHビル2階  
TEL 0466-54-8417 CALL 090-8437-5259

[HP click](#)◀ [Blog click](#)◀ [LINE friend](#)◀ [X follow](#)◀



# 大阪・関西万博、220億円の黒字で閉幕

1970年大阪万博との比較で見える「経済と暮らしの変化」

10月13日に大阪・関西万博は閉幕しました。当初は「パビリオンの建設が間に合わない」「前売りチケットの販売が不調」など、成功を危ぶむ報道も多く見られましたが、終わってみれば大盛況のうちに幕を閉じました。

累計来場者数は2,557万人。

収入の柱である入場券の販売が好調で、当初計画を約200億円上回ったほか、公式グッズや飲食店の売上も順調でした。

協会職員の人工費、清掃費、イベント費などの運営費については、計画の1,160億円に対し220億～280億円の黒字になる見込みです（運営費のほかに建設費2,350億円、警備費250億円などがあります）。

下表は日本で開催された博覧会の累計来場者数です。概ね2,000万人前後が来場していますが、1970年の大阪万博は6,400万人が訪れ、2010年の上海万博（約7,300万人）に次ぐ世界第2位の記録となっています。

開催年	博覧会名	入場者数
1970	日本万国博覧会（大阪万博）	64,218,770
1975	沖縄国際海洋博覧会	3,490,000
1985	国際科学技術博覧会（筑波万博）	20,334,727
1990	国際花と緑の博覧会（大阪・花博）	23,120,000
2005	愛・地球博（愛知万博）	22,049,544
2025	大阪・関西万博	25,578,986

今年の大坂・関西万博でも、パビリオン入場を待つ長い列がニュースになりましたが、1970年の大阪万博では、アメリカ館の「月の石」展示を見るために5時間待ちだったそうです。

1970年といえば高度経済成長期の真っただ中で、戦後日本が最も勢いのあった時期です。右上の表は当時と現在を比較したものです。

当時の平均年収は約95万円、現在は約495万円と約5.2倍になっています。

事業費500億円にこの倍率を当てはめると約2,600億円となり、ほぼ今年の万博と同規模です。

項目	1970年大阪万博	2025年大阪・関西万博
入場者数	約 6,422万人	約 2,557万8,986人
入場料	大人：800円	大人1日券：7,500円
事業費（建設費等含む総費用）	約 500億円超	約 2,350億円
収入（運営費）	約195億円	230～280億円の黒字見込み

注目すべきは収入です。

195億円という当時の金額は、大きな貨幣価値の違ったにもかかわらず現在とほぼ同等の規模だったことには驚かされます。

一方で、年収が5.2倍となる中、入場料は約9.4倍に上昇しており、現在はやや割高に感じられるかもしれません。

当時は経済成長率が10%前後の高成長期でしたが、現在は1%程度です。

平均年齢も30.5歳（現在は約48歳）と若く、社会保障への不安は今ほど大きくありませんでした。そのため国民負担率も約24%と、令和7年の46.2%の約半分でした。

したがって、当時は手取りが多く、将来不安が少なく経済も成長していたため、貯蓄より消費に回す傾向が強かったといえます。

こうして見ると、当時の人々の方がお金の心配をせず、心から万博を楽しめたのかもしれません。

夏休みでアイスクリームが溶けてしまう暑さの中、焦って食べながら小学6年生の私は本当にワクワクしました。

この秋は日本でも政治が大きく動きました。

より明るい未来になるように私たち一人ひとりの意識が大切ですね。

\*表の数字はインターネット上の公開情報をもとに作成しています。  
正確性を保証するものでないことをご了承ください。